

目 次

P1 令和 6 年度 栃木県支部年次大会の報告

(1) 年次大会

県支部幹事 島田 源一

(2) 講演会

県支部幹事 宮下 治

(3) 交流会（新合格者祝賀会）

県支部幹事 西谷 元則

《特 集》

P3 協賛団体若手技術者の紹介

株式会社栃木県用地補償コンサルタント

館野 司 氏

《活動報告》

P4 令和 5 年度 「令和 5 年度_技術士を志す方への情報提供講座」 県支部幹事 宮下 治

P5 ものづくりに携わる浙江省科学技術庁地方職員との交流と産学官への訪問見学

県支部幹事 亀田 則男

P8 令和 6 年度「科学技術・理科支援活動の報告」

県支部幹事 西谷 元則

P10 男女共同参画小委員会の活動報告及び 6 月の講演会の報告

県支部幹事 井本 郁子

P10 防災見学会

県支部幹事 島田 源一

P11 編集後記

県支部広報委員長 西谷 元則

P12 協賛団体紹介

※「広報委員長のよもやま話」はお休みです。

令和 6 年度 栃木県支部年次大会の報告

(1) 年次大会

令和 6 年度の日本技術士会栃木県支部の年次大会は、令和 6 年 7 月 20 日（土）ニューみくら（宇都宮市）にて対面形式で開催されました。

年次大会には、来賓 5 名、協賛団体 5 団体、会員 39 名が参加し、令和 5 年度の活動および収支報告、令和 6 年度の活動方針、さらに各委員会別に事業計画が報告されました。

1) 報告事項

司会は亀田副支部長による進行で、以下の内容が報告されました。

① 支部長挨拶

多くの会員の皆様のご理解ご協力をいただき、栃木県支部も発足以来 13 年を迎えることとなりました。年次大会の開催時期については、これまで 6 月の開催となっていましたが、今年度からは本部開催後とし本日の開催といたしました。現在、会員 211 名、協賛団体は新たに 6 社加入の 34 社の皆様とともに、引き続き活発な県支部活動を展開していきたいとの挨拶でした。

② 令和 5 年度事業経過報告について

事業の経過報告及び各委員会の活動について、小川副支部長から報告しました。

昨年 5 月にコロナ禍による行動制限が解除され、県支部活動も従前のように戻ってきました。年間を通じて県支部活動の着実な成果を積み重ね、会員のための講演会、CPD 研修などは対面方式と Web 配信のハイブリッド開催により実施しました。

新たに設立した男女共同参画小委員会は活動を始め、また理科教室活動や中小企業支援、防災支援などの活動も徐々にコロナ禍前に戻りつつあると報告された。

県支部幹事 島田 源一



③ 令和5年度収支報告、令和6年度収支予算計画（案）について

令和5年度の報告及び令和6年度の計画について、小川副支部長が報告しました。

④ 令和6年度活動方針（案）について

- ・ 県支部活動の実績を踏まえ、“会員の顔が見える会”を旗印として、会員の拡大と各委員会の活性化による支部の強化とともに、会員及び協賛団体のために CPD 講座や見学会、研修会を充実させる。
- ・ “地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋”となるよう、地域が抱える課題に対して社会貢献活動を展開する。特に、市貝プロジェクトや宇都宮市・帝京大学等での理科教育活動、防災支援活動における関係団体との情報共有や、昨年新たに設置した男女共同参画に関する活動に尽力する。
- ・ 中小企業を支援する業務に拡大を図る。そのために、金融機関や企業をサポートする関係機関に、支部活動として技術士業務の案内や支援内容を紹介するとともに、依頼された業務の質の向上に努める。
- ・ 中国浙江省科技交流和人材サービスセンターと引き続き技術交流を深め、具体的な成果に結び付ける。

以上の方針に沿った支部運営にあたっては、「挑戦」「継続」「連携」に特に意を用い、各委員会を中心として活動を展開したいと福田支部長から説明がありました。

⑤ 令和6年度事業計画（案）

総務委員会（小川委員長）、企画・研修委員会（宮下委員長）、広報委員会（西谷委員長）、企業支援委員会（柏崎委員長）、国際委員会（亀田委員長）、科学技術理科教育小委員会・環境支援小委員会（西谷委員長）、防災支援小委員会（島田委員長）、地域支援小委員会（小川委員長）、男女共同参画小委員会（井本委員長）の各委員長から、それぞれの委員会活動について令和5年度の実績と令和6年度の計画の説明がありました。

2) 新規協賛団体の紹介について

協賛団体新規加入について、6団体の承認報告がありました。

(2) 講演会

県支部幹事 宮下 治

1. はじめに

栃木県支部の年次大会は6月第2土曜日の開催でしたが、令和6年度は本部総会の終了後の7月の開催です。年次大会に併せて講演会がありました。出席者は来賓、会員等約40名でした。講演会の概要を報告します。

2. 講演会について

1) 演題

令和6年度の「栃木県の産業政策について」

2) 講師

栃木県産業労働観光部 工業振興課長 郷 秀憲様

3) 内容

栃木県重点戦略、とちぎ産業構造等、新とちぎ産業成長戦略、次世代産業創造プロジェクト、サービス産業発展プロジェクト、ものづくり産業プロジェクト、企業誘致プロジェクト、グローバル展開プロジェクト、観光立県とちぎプロジェクト、産業人材の確保・育成、中小企業・小規模企業の活性化、新たな課題に分けて、説明があった。

栃木県の地理的状況から東京等首都圏への人口流出が避けられないため、産業を守るためには人材確保・育成が大事となる。特に、中小企業・小規模企業の活性化のための支援が必要である。人材育

成のためにリ・スキリング推進の拠点をつくり新たな学びの場所とする。また、女性の活躍できる雇用・産業の創出等に向けた事業戦略を策定した。主な政策は次のとおりである。

「女性に魅力ある雇用や産業が集める“とちぎ”」、「女性が求める働き方ができる“とちぎ”」、「女性が求めるキャリアが実現できる“とちぎ”」、「住みたい・働きたいと思われる”とちぎ”」、「結婚や子育ての希望を叶える“とちぎ”と5つを挙げた。

栃木県内の産業を守るために様々な政策がある。これらの政策を企業が有効に生かすことが肝要である。

(3) 交流会（新合格祝賀会）

県支部幹事 西谷 元則

令和6年度の栃木県支部の年次大会、講演会の後、会場を隣に移して、技術士一次試験合格者及び二次試験合格者の方々を招待しての「交流会（新合格祝賀会）」（以下「祝賀会・交流会」と称す）が催されました。祝賀会・交流会は、隣との間隔をゆったりと取った明るく和やかな雰囲気の中で、進んで行きました。

会場の一角には、令和5度の技術士二次試験合格者の奥田浩二氏、一次試験合格された道瀬綾子氏、丹波史彰氏、高橋亮太氏、岩崎敬寛氏（下写真の並びに順）の5名が参加されました。合格されたお一人お一人に自己紹介とご挨拶いただき、今後の抱負などを話していただきました。

この方々全員が本支部の一員として入会して頂ければ、栃木県支部の発展も間違いないと確信する会になりました。



《特 集》

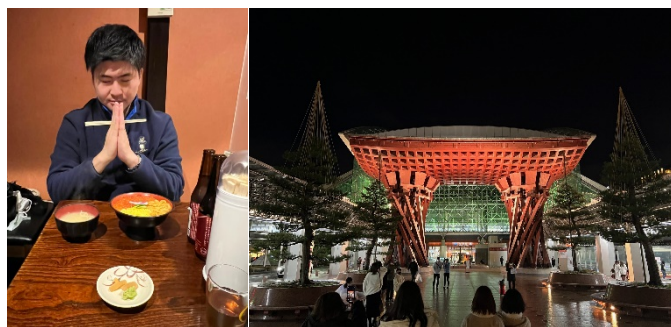
協賛団体若手技術者の紹介

1. 自己紹介

株式会社栃木県用地補償コンサルタント

技術部設計課 館野 司 氏

趣味：旅行先の食べ歩き、バスケットボール
技術者として、道路や河川だけではなく、
多方面に活躍の場を広げていきたいと考えて
います。



(2021年12月 金沢旅行)

2 経歴

2010年3月 日本大学 工学部 土木工学科 卒業

2010年4月 株式会社栃木県用地補償コンサルタント 入社

3 若手技術者

・入社した動機

道路や河川など我々の身近な存在であるインフラ事業に関心があり、当社は道路計画及び河川災害など多くの実績があり、地域の安心安全を担っていることに興味があり入社いたしました。

- ・現在の仕事

現在は、河川整備計画や河川改修事業などの業務に携わっております。河川の氾濫シミュレーションを行い、事業の費用対効果の算出や河川整備計画から工事発注に関わる構造検討、図面作成、数量計算書などを行っています。

- ・現在の興味ある仕事

近年、DX化に伴い BIM/CIM が浸透してきました。現段階では、3D 設計で作成できる制限はありますが、3D 設計に興味があり、知識の取得と技術力向上を目指し、3D 設計 CAD を使用して業務を行っています。

- ・技術士に向けて

現在、試験勉強中です。

- ・将来の目標

技術士の資格取得及び技術研鑽を常に心がけ、インフラ事業に貢献できる技術者を目指していきます。

《活動報告》

令和 5 年度 「令和 5 年度_技術士を志す方への情報提供講座」 県支部幹事 宮下 治

本講習会は、「土木学会関東支部栃木会」と「公益社団法人日本技術士会栃木県支部」の共催です。講習会の目的は、技術士を志す方に対して、直近で技術士（一次・二次）試験に合格された方からの受験体験談を発表して頂きます。また、今後の受験に向けて講師・技術士とのフリートーキングを行い、技術士について理解を深めて頂くための講習会です。開催は、令和 6 年 2 月 22 日（水）18 時～20 時、会場は栃木県総合文化センター第 2 会議室で行いました。受験予定の参加者は、産業界、官公庁から合計 12 名でした。講習会の前に、県支部企画・研修委員会の石附尚志副委員長から技術士、技術士補を目指す方へ技術士制度、第一次・二次試験について、修習（研鑽）すべきことについての情報提供を行いました。



写真1-講演会の様子



写真2-石附尚志氏

体験談の講師は、一次試験合格者の西村美羽也氏（㈱水環境プランニング）、二次試験合格者の磯永秀典氏（アキレス㈱）、西川能文氏（㈱建設技術研究所）の 3 名の方にご協力を頂きました。

西村氏の体験談は、以下のとおりです。基礎科目及び適正科目は、「基礎・適正科目パーフェクト 2022 版」を基本に勉強をした。基礎・適正科目は、得意なカテゴリーを優先して学習を行った。専門科目は、過去問の演習で充分対策ができる。勉強場所・時間は、日常は、社内の空時間、自宅で短い時間、会社での勉強会、1 か月前は図書館等で数時間行った。試験当日は、余裕をもって移動、受験票・筆記用具の確実な準備、お昼の準備、休憩時間にはお手洗いにいくこと。試験では、解答する問題の数確認、解答の塗り間違い、解ける問題から先に進めたとのことでした。



写真3-西村美羽氏

磯永氏の体験談は、以下のとおりです。筆記試験を解答は、問題文を理解し、丁寧な文字で書くこと、分かり易い書き方、技術的な内容を多く含むことである。このことを前提に勉強をした。参考資料は、過去問は必須である。環境白書など国関連の刊行物は、貴重な資料である。口頭試験は、「実務経験報告書」をみて質問する。申込書を作成するときは、口頭試験を意識して作成する。質問内容は、コミュニケーション・リーダーシップ、評価・マネジメント、技術者倫理、継続研鑽であった。内容が高度化しているので、これに対処できる知識を身につける努力が大切である。「若いうちに合格を目指そう」とのことでした。



写真4-磯永秀典氏

西川氏の体験談は、以下のとおりです。受験動機は、技術者としての自分の力を試したい。筆記試験対策は、時事問題、キーワードなどの整理、想定問題を使い論文作成の練習を行った。論文練習で第三者のセルフチェックを受けなかったことが失敗であった。口頭試験は、業務経歴の小論文の概要を1分程度で述べよ、リーダーシップを発揮した点について述べよ、コミュニケーションで苦労した事例を述べよ、倫理綱領の3つを述べて一番重要と考える項目とその理由を述べよと、であった。内容の濃い質問である。自分の経験を整理し、質問に答える資料の準備が必要であるとのことでした。



写真5-西川能文氏

本日の講習会を受けて、これから受験される方が自分にあった受験準備をみつけれられることを期待したいと思います。

ものづくりに携わる浙江省科学技術庁地方職員との交流と産学官への訪問見学

県支部幹事 亀田 則男

令和5年12月3日～9日に、公益社団法人日本技術士会栃木県支部は国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）の支援を受けて、中国浙江省科学技術庁の地方職員10名を招へいし、併せて自己負担による中小企業者17名を受け入れました。

この間、製造業各社および大学、栃木県の研究施設等を見学し、日本側の専門家との技術交流を精力的に行いました。

視察訪問先はJSTの日本科学未来館、企業のパナソニックセンター東京、コベルコパワー真岡工場、日立グローバルソリューションズ栃木工場、宇津救命丸資料館、深井製作所。それに宇都宮市グリーンパーク茂原（一般家庭ゴミ焼却場）、栃木県産業技術センター、宇都宮大学工学部。また中華人民共和国在日本国大使館と栃木県庁への表敬訪問をしました。

また、ものづくりに関するセミナーを開催しました。浙江省は栃木県の友好姉妹都市（令和5年は締結30周年）で、科学技術の交流に重きを置いています。そのため栃木県庁表敬訪問は熱烈的な歓迎を受け、その様子は新聞二誌に掲載されました。

日本科学未来館では日本の先端技術に触れ、参加者全員大変興味を持って見学しました。中国にはこのような施設がないとのことで、子供たちが大勢見学している様子を羨ましがっていました。中国大使館には「さくらサイエンスプログラム」で日本に招へいされたことの報告をしておりました。



写真-1 日本科学未来館前で記念撮影



写真-2 中国大使館前で記念撮影

パナソニック東京センターではひらめきをカタチにするミュージアムで楽しみました。



写真-3 パナソニック東京センター



写真-4 パナソニック東京センター

宇都宮市営ごみ焼却場（クリーンパーク茂原）を見学。現在浙江省では環境対策に積極的に取り組んでおり、ごみの分別や回収車の受け入れに興味を示し、瓶は色によって分別されるのには驚いていました。

焼却場内外が清潔で匂いもない状態にも関心しておりました。

日立グローバルソリューションズ(株)栃木工場では冷蔵庫の生産ラインや品質・安全管理等の説明後、工場を見学しました。



写真-5 クリーンパーク茂原前



写真-6 説明会



写真-7 工場前での記念撮影

栃木県産業技術センターでは所長および担当者から業務内容や現在の体制の説明後、所内の各研究室を廻り、電波暗室や匂いの分析室等を見学しました。

宇都宮大学工学部訪問では学長および工学部長から歓迎挨拶を戴いた後、イチゴのロボットによる自動摘み取りの見学や各研究室で説明を受けました。

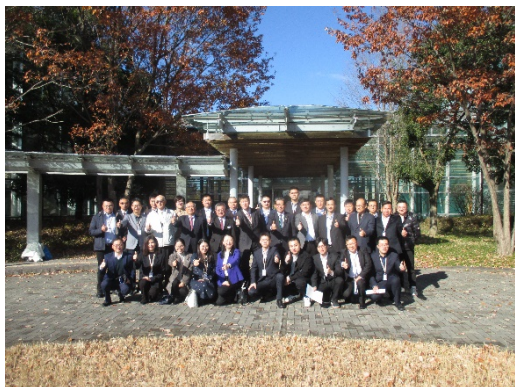


写真-8 栃木県産業技術センター所長を囲んで



写真-9 宇都宮大学学長と工学部長を囲んで

栃木県庁への表敬訪問では天利副知事および関係部局の方々から、盛大な歓迎を受けると共に歓談をいたしました。

深井製作所では自動車部品製造過程の見学の後、質疑応答が熱心に交わされました。現在、中国のものづくり中小企業の多くが 5S に取り組んでおり、5S を徹底している深井製作所には感心しておりました。



写真-10 天利栃木県副知事を囲んで



写真-11 深井製作所前での記念撮影

当支部主催の技術セミナーを開催。熱心な質疑応答がありました。



写真-12 講師による講演



写真-13 招へい者の聴講の様子



写真-14 日光中禅寺湖での憩いのひと時



写真-15 最終日、修了書とバッジを持って

タイトなスケジュールでしたが充実した一週間を過ごすことができました。今後、さらに関係を深め人的交流を推し進めたいと思います。さくらサイエンスプログラムに深く感謝申し上げます。

令和 6 年度 「科学技術・理科支援活動の報告」

県支部幹事 西谷 元則

1) チャレンジ★ラボの出展報告

開催日時：2024 年 4 月 14 日 11:20~12:00

場 所：道の駅 はが

スタッフ：井本、水野、富田、西谷（敬称省略）

参 加 者：35 名

今年度初回の科学技術・理科教育支援小委員会は、子育て支援キラキラママサークル主催の「チャレンジ★ラボ」に出展しました。野外会場のステージで紙飛行機を作成し大空めがけて飛ばす体験教室を行いました。

小学生以下を対象に約 35 名の子供たちが参加。保護者の方と一緒に「アルソミトラ紙飛行機」と「ラワン紙コクター」を作成しました。久しぶりの紙飛行機でしたので不都合も多く、改良が必要な点も見つかりました。

スタッフメンバーが少なく、写真が撮れませんでした。子供たちの笑顔で紙飛行機を飛ばす姿がとても印象的でした。



2) 第1回ワクワクドキドキサイエンス（サイエンスカフェ事業）

開催日時：2024年5月19日 10:00～12:30

場 所：まちぴあ（宇都宮市まちづくり推進センター）

スタッフ：富田、亀田、島田、池田、西谷（敬称省略）

参 加 者：10名（保護者10名）



今回のワクワクドキドキサイエンスは、県支部防災支援小委員会と科学技術・理科教室支援小委員会のコラボレーションで第1回を開催しました。依頼者は「子育て支援キラキラママサークル宇都宮」で、参加者は小学5年生2名、小学4年生4名、小学3年生3名、小学1年生1名の計10名でした。

内容は、今年の1月に発生した能登半島地震を受けて、「地震はどうしておきるのか」（講師：建設部門の島田源一）、「地震のときの停電対策」（講師：電気電子部門の富田卓哉）、「講師：水をきれいにする実験（水の確保）」（上下水道部門の西谷元則）を三名が講師を行い、最後に「防災クイズ」9問を（講師：建設部門の亀田則男）が行いました。

地震のメカニズムの話は、小学生には難しかったと思いますが、「プレートのずれによって地震が起こる」ってことを理解していました。さらに「液状化の模型」や「災害時の古新聞スリッパづくり」など体験を行い、液状化の原理を見たり体験したりし、簡単にできるスリッパを楽しそうに作っていました。

停電の話はとても分かりやすく保護者の方に大変好評でした。子供たちには資料を先に配布してしまい、子供たちへの質問の答えがバレバレになってしまい失敗しました（反省）。保護者からの質問も多く、興味があることを実感しました。水をきれいにする実験では、ミョウバンと重曹を使って浮遊物を沈殿させ、その後、各自が作った簡易浄化ペットボトルで沈殿、上水のみ入れろ過する2段階で浄化方法する実験をしました。ろ過装置として作ったペットボトルの装置は各自持ち帰ってもらいました。

帰り際に保護者の方に、素晴らしい活動を応援したいなど言って頂きとても良いワクワクドキドキサイエンス（サイエンスカフェ事業）ができたと感じました。



地震メカニズム（島田氏）

液状化体験（池田氏）

新聞紙スリッパ

停電の話（富田氏）

水浄化の実験（西谷）

防災クイズ（亀田氏）

男女共同参画小委員会の活動報告及び 6 月の講演会の報告

県支部幹事 井本 郁子

開催日時：2024 年 6 月 8 日 13:30～16:00

場 所：栃木県職員会館「ニューみくら」

講師：宇都宮大学名誉教授（元宇都宮大学理事/副学長）

一般社団法人 glowing 代表理事 藤井 佐知子 氏

参 加 者：38 名（内会員 21 名）



「男女共同参画の現状と課題—女性理工系人材は増やせるか？」

世界に圧倒的な遅れをとっている日本の男女共同参画。国は様々な政策を打ち立て、職場や学校、地域でそれぞれ取組が進んでいるが、その展望は決して明るいものではない。我が国の男女共同参画推進の歩みと現状を確認しつつ、問題の根本と解決への道筋を明らかにするとともに、女性理工系人材育成の可能性を探る。

日本における技術士の女性比率は先進国の中では極めて低く、少しずつ増えているとはいえ 2024 年 3 月現在では 2.56%、約 40 人に一人というきわめて低い数字となっています。講演会は、根本となっている問題と理工系人材育成の可能性についてあらためて考える機会となりました。開催にあたっては、技術士会の会員に加えて、自治体や企業で働く女性技術者と男女共同参画をすすめる担当者に参加を呼びかけ、社会全体の課題として共同参画について考える機会としました。

具体的には、日本における男女共同参画の過去 40 年の歴史、取り組むべき課題、女性の理工系人材についての現状の確認をもとに、男女の賃金格差が縮まらない原因の根本にある問題として、出産育児へのサポートの不足、根底にある性別役割意識や偏見が指摘されました。その上で、女性の理工系人材が少ない理由は、理系分野に対する男性イメージ、数学ステレオタイプ、アンコンシャスバイアス（無意識の偏見・思い込み）、が示唆されました。そこで、理工系女子を増やす方策としてのリコチャレのような女子生徒への働きかけ、大学入試の女性枠、産業界の取り組みの必要性などが考えることなど、様々な示唆に富むお話をいただきました。

フリーディスカッションでは、産業界に所属する技術士からは、産休や育休などについては業務の遂行のために人員配置などの調整が課題であるとの意見、子育て世代からは育休中における学習機会、ワークライフバランスと家事・育児の外部化（サポート）の必要性など様々な意見が出されました。あらためて男女共同参画の課題を様々な立場から考え直す機会となりました。



防災支援小委員会（現地見学会）の報告

県支部幹事 島田 源一

1. 日時：令和 6 年 3 月 4 日（月）13 時 10 分～14 時 40 分
2. 場所：主要地方道西那須野那須線 黒磯那須バイパス（那珂川渡河橋梁工事現場）
栃木県那須塩原市黒磯地内

3. 講師：栃木県大田原土木事務所 福嶋課長、石田主任

オリエンタル白石 増子現場代理人 他

4. 参加者： 8名（会員7名、協賛団体1名）

5. 見学会概要

那須地域の晩翠橋周辺は、市町境を流れる一級河川那珂川により分断され、市町を渡河する橋梁が少ないことから、交通が集中し通勤時間や観光シーズンにおいて渋滞が発生するなど、沿線住民および観光客の通行に支障が発生している状況にあります。

このため栃木県大田原土木事務所では、新たなバイパスとして、平成28年度から令和7年度の完成を目標に主要地方道西那須野那須線黒磯那須バイパスの整備に着手しています。この事業は、渡河橋梁部252mを含む全長2,070mの新たな道路事業で、この整備により交通の円滑化と那須塩原エリアの観光周遊性の向上が図られるとのことです。

当防災支援小委員会では、新たな道路整備により地域連携軸を強化することは、災害時には速やかな復旧復興に大きく寄与するものと認識し、会員を中心に現場見学会を開催しました。

工事現場において、まず大田原土木事務所の福嶋課長、石田主任様から、今渇水期で橋梁の下部工事を完成させる予定など、事業概要やこれまでの事業経過の説明をいただきました。また、オリエンタル白石株式会社の増子様や関係者から、ニューマチックケーソン工事の経過や天井走行式ショベルなど機械による省力化への取り組みについての工事説明と、現場案内をしていただきました。

参加者からは、地震時の対応や環境負荷低減策、機械と有人施工でのメリットデメリット、また工期制約があるなかでの施工計画への取り組みなど活発な質疑が行われ、参加者および工事施工者の士気の高さを感じました。ここに厚く御礼申し上げます。



編集後記

令和5と6年度の活動報告を中心に会報21号を無事に発刊できた。7月20日に開催された年次大会及び講演会、合格祝賀会は和やかに開催され、今年度の活動に結び着くようになればと思います。

さて、7月3日に20年ぶりの新紙幣が発行されました。長い間お世話になった「福沢諭吉、樋口一葉、野口英世」の歴史的人物を毎日のように見ていた紙幣とお別れです。新紙幣はしばらく「あれ」と思いますが自然となじむようになることなのでしょう。栃木県支部活動も新組織として「男女共同参画小委員会」が設置され活動が開始されました。ここにダイバーシティなどを加え多角的な視点での活動を期待します。

また、本会報では協賛団体の「若手技術者」を紹介しています。今後県支部の担い手として日常業務は当然のこと栃木県支部のメンバーと一緒に活動できることを期待しています。

本会報の発刊にあたりご協力いただいた方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

公益社団法人 日本技術士会 栃木県支部 会報 第21号 2024年8月発行
発行者 栃木県支部（支部長 福田 一郎）
広報委員会：委員長 西谷元則
副委員長 徳江義宏、新井達雄、大島晃二
委員 大岩正通
事務局 〒321-0954 宇都宮市元今泉5丁目9-7 宇都宮まちづくりセンター内
Tel：028-678-8600/Fax：028-678-8630

～栃木県支部を支えていただいている～協賛団体（五十音順）

 宇都宮測量株式会社	 SIA Environmental Office 株式会社 エスアイエイ 環境事務所
 株式会社 エース設計	 KUDOU SEKKEI 株式会社 工藤設計
 株式会社 格和測量設計	 KYOWA 協和測量設計株式会社
 株式会社 景観プランニング	 晃洋設計測量株式会社
 建設コンサルタント 株式会社シー・アイ・エス Construction Information Service	 株式会社 篠原設計
 株式会社 真和技研	 大日本ダイヤコンサルタント 関東支社 宇都宮支店
 DAIMICK 株式会社 ダイミック	 CER 株式会社 中央土木工学研究 Central Civil Engineering Research Co., Ltd
 TOA SURVEY 東亜サーベイ株式会社	 東洋測量設計 株式会社
 URC 建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量全般 株式会社 都市開発コンサルタント	 株式会社 都市と自然をつなぐ。 都市環境設計室
 株式会社 栃木県用地補償コンサルタント	一栃木県職員退職者の熟練技術者～ 栃木県庁 OB 職員技術士会
栃木県県庁職員技術士会	 日研測量株式会社
 日昌測量設計株式会社 NISSHO SURVEYING DESIGN CO.,LTD	 NS 日本測地株式会社
 コンクリート製造販売・建設コンサルタント パスキン工業株式会社	 PCRW 株式会社 ビーシーレールウェイコンサルタント
 株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ	 富士コンサルタンツ株式会社
 フジ測量設計株式会社	 芙蓉地質株式会社
 前田製管株式会社	 株式会社 水環境プランニング
 株式会社 安田測量	 株式会社 緑生研究所